

キャッチフレーズ形式を用いた 新しい政治的態度尺度の構成

東 正 訓

The Construction of a New Political Attitude Scale Using a Catch Phrase Form

Masanori HIGASHI

〔 問 題 〕

1. 本研究の目的

わが国は、長きに渡った自民党単独政権の時代が終結し、各政党が離合集散を繰り返す中で連立政権が形成される変動期に移行した。現時点では、過去には予想もされなかった自社連立政権が誕生するに到っている。猫の目のように変わる現在の政局状況下における、国民の政治的態度構造や政治的行動の変化は、政治心理学や社会心理学に携わる者にとって、大きな関心事となっている。

さて、今日のような政局が混乱している時期においては、突発的な政治的状況の変化にすばやく対応して調査研究をおこなわねばならないことが十分予想される。そこで、政治的態度の測定のためには、出来るだけ簡便に使用でき、かつ応用度の高い態度尺度が必要であると考えられる。また、社会主義諸国の崩壊など国際情勢の大激動をリアルタイムで見聞してきた現代日本人の政治的態度を的確に理解し測定するには、旧来の政治的態度の枠組みや既存の態度尺度では捉え切れないおそれもでてきており、現在の政治、社会状況に応じた新しい態度尺度の開発が望まれる。

そこで、本研究では、政治的態度を測定するための新たなツールとして、実査に要する時間を短縮でき、かつ信頼性も比較的高いとされる「単語や短句形式による政治的態度尺度」の構成を試みることにした。

2. キャッチフレーズ形式による態度尺度の利点について

従来より、態度測定は、文章形式による態度尺度によって行われることが多かったが、政治的態度の測定に関しては、キャッチフレーズ形式による測定が試みられることが最近では多くなっている。キャッチフレーズ形式を用いた態度測定とは、被験者に、態度対象を表す単語や体言止めで終わる短い句を提示し、これらに対して好悪や良いか悪いかなどの評価反応をさせることによって態度を測定しようとする方法である。

文章で表現された意見項目を提示する従来のやり方とちがって、キャッチフレーズ形式による態度尺度はどのような利点があるのだろうか。当形式による態度測定の端緒となった Wilson & Patterson (1968) の研究によれば、キャッチフレーズ形式の尺度は、態度対象の名称そのものを測定項目につかえるので、文章形式尺度と比べて、文法的な読み間違いや多義性などの曖昧さによって生じる回答反応への影響、黙従反応や社会的望ましさなどの歪曲反応がある程度抑えることができる点が好ましいとされている。

また Kerlinger (1972) は、Wilson ら同様に、キャッチフレーズ形式による態度測定が、外生的かつ人為的な反応の変動要因の分散を出来るだけくまなくする工夫であるということを確認したうえで、これ以外にもキャッチフレーズ形式による態度測定の利点を挙げている。それらの利点とは、まず第一に時と場所が変わると社会的態度の意見項目のような文章形式の尺度が、時がたてば時代遅れになりやすいが単語形式は比較的そうではないこと、第二に、曖昧さがすくないこと、第三に、項目が短く簡単なので、より広い態度領域をカバーしやすいこと、第四にワーディングの影響が極小であること、第五に、一対比較や強制選択法など他の測定形式に転用可能である、という5点である。

さて、社会的態度および政治的態度の構造や内容は、決してカルチャーフリーではないので、日本における態度測定をおこなうには、日本の文化や歴史的背景、政治システムなどの実情に合わせた尺度構成をおこなう必要がある。日本におけるキャッチフレーズ形式の尺度構成を試みた最初の研究としては、吉森 (1974) による保守主義尺度の研究がある。彼は、Wilson & Patterson (1968) の研究をうけて、保守主義を測定する日本人版のキャッチフレーズ形式の尺度を構成した。最近の研究としては、原田 (1986) がキャッチフレーズ形式の政治的態度尺度の構成をおこなった。原田は、国家主義、資本主義、軍国主義、変革主義というそれぞれ6項目からなる4個の尺度を構成している。 α 係数は、.682 ~ .776 の範囲にまたがっており、態度尺度としてはほぼ満足できる信頼性である。後に、原田は、それぞれ8項目からなる、国家主義、復古主義、反変革主義、体制維持の4尺度を構成し、あいまいさへの不寛容と政治的関心との関係を分析している (原田, 1989)。項目数が8個にふえたために、この研究で用いられた4尺度の α 係数は、.734 ~ .804 の範囲にあり、高い信頼性を確保しているといえよう。

これらの研究にみられるように、キャッチフレーズ形式尺度は実査時間を短縮しながら、か

つ信頼性の高い測定ができる利点をもつと考えられる。しかしながら、1980年代の後半以降の国内外の政治状況の変化は著しいために、既存の尺度を現時点の調査に適用できるかどうか問題となろう。そこで、現在の政治状況に合わせて新たな尺度構成が必要であると考えられる。本研究では、できるだけ幅広い政治的態度領域を網羅し、かつ現代の政治的風潮に合致した尺度を構成することをめざすことにした。

〔方 法〕

1. 質問紙の構成

キャッチフレーズ形式の態度尺度を構成した諸研究の中で、代表的で網羅的な尺度構成であると考えられる Kerlinger (1984) や原田 (1986) の研究を参考にして、項目の収集をおこなった。さらに、調査時の争点となっていた態度対象や今後争点となりそうな態度対象を想定し、いくつかの項目を考案し追加した。なお、本研究では、フェミニズムやエコロジーなど、これまで日本の態度間構造研究でとりあげられることの少なかった対象に関しても、測定領域に加えていることが特徴である。最終的には、70項目の態度項目を使用することにした。また、質問紙には尺度の妥当性を検討するための外的基準として、政党支持に関する質問項目もつけくわえた。

さて、キャッチフレーズ尺度の教示は、口頭で次のようにおこなわれた。『以下には、社会や政治に関するさまざまなトピックを表した単語やキャッチフレーズのリストがあります。あなたは、これらのトピックについて、どの程度「よい」または「よくない」と思いますか。『まったくよくない』から、『ひじょうによい』までの7段階のもののさしがありますから、あなたの気持ちに最も近いと思われる所の番号に○をつけてください。あまり考えこむと答えられなくなりますので、最初に思った所に○をつけてください。それでは、こちらの読むスピードにあわせてご回答ください。』

評定方法は、「まったくよくない」～「どちらでもない」～「ひじょうによい」の3カテゴリーにつき、1点から7点までを1点間隔で区切って被験者に提示し、回答をおこなわせた。回答反応の得点化は次のようにおこなった。まず「まったくよくない」には1点をあたえ、次に1点きざみの間隔で2点、3点を割り当て、「どちらでもない」には4点を、つぎに5点、6点を割り当てる。そして「ひじょうによい」には7点を割り当てるという方式である。

2. 被験者と調査時期

本調査は、1993年7月7日に、講義時間を利用して、追手門学院大学大学生270名（男子=134, 女子=136）を対象におこなわれた。本調査をおこなった時期は、すでに第40回衆院選挙

が公示（7月4日公示）されており、近日中（7月18日投票）に選挙がおこなわれるといった時期であった。また、世間では自民党の過半数割れが予想されていた時期であった。この後、衆院選挙の結果、細川首相を首班とする連立政権が成立している。

〔結果と考察〕

1. 新政治的態度尺度の項目分析

まず、70項目について主成分分析（Varimax 回転および Promax 回転）によって、項目のクラスタリングをおこなった。一般因子的な因子と比較的明確な内容の習性水準の因子が同時に抽出される傾向があったために、ひとまず習性水準レベルの因子に負荷した項目群を尺度として採用した後、当該項目を取り除き、残余項目群をさらに主成分分析によってクラスタリングしていくという作業を数回くりかえした。項目の選択は、尺度の信頼性を優先させたが、できるだけ測定する内容がかたよらないことにも留意した。また、できるだけ少ない項目数で測定をおこなうために、最終的には全尺度項目の項目数を5項目に揃えることにした。各尺度項目は Table 1 に掲載している。

次に7尺度の全項目35項目間の因子構造を確認するために、項目間相関行列をもとめ主成分分析をおこない、7成分を抽出した。Table 2 に示した Varimax 回転後の因子負荷行列によると、いくつかの項目は複数の因子に対して重複した因子負荷を示すが、全体的には7尺度の項目は、尺度内容に対応した因子に対して際立った因子負荷を持つ単純構造（simple structure）であることがわかる。そこで、各尺度は、多少の重複はあるものの、相対的には別個の態度特性を測定しうるものと考えられる。

2. 新政治的態度尺度の信頼性評価と性差

上記の項目分析によって構成された尺度を新政治的態度尺度と呼ぶことにした。この新政治的態度尺度の採点方法は、項目得点の単純加算によっておこなわれた。ただし「現代世界の危機」および「政治腐敗批判」の2尺度の尺度得点に関しては、採点方向を尺度名の特性方向にそろえるために、（40点－項目得点の単純加算値）という式にもとづいて算出した。

新政治的態度尺度の内的整合性信頼性を評価するために α 係数を求めた結果、 α 係数は .652 ～ .789 の範囲であった。政治的保守主義尺度の α 係数が .652 とやや低いため、当尺度については今後改善が望まれる。しかし、全体的には態度尺度としては、ほぼ満足できる値であると考えられた。

次に当尺度の男女別の尺度得点の平均を Table 3 に示す。男女間の平均値を t 検定によって検定した結果、「社会的保守主義」、「自由・平等」、「現代世界の危機」の3尺度に関して、

Table 1 新政治的態度尺度の項目と α 係数

項目番号	政治的保守主義	$\alpha = .652$	項目番号	政治参加・関心	$\alpha = .734$
27	自衛隊		11	市民運動	
43	原子力発電所を増やすこと		51	ストライキ	
56	日本国憲法の改正		62	市民が政治に参加すること	
35	日米安保条約		33	政治に関心を持つこと	
22	大企業		49	民主主義	
項目番号	社会的保守主義	$\alpha = .690$	項目番号	現代世界の危機	$\alpha = .789$
68	敬語を使うこと		41	公害	
60	目上の人を尊敬すること		5	地球温暖化	
20	天皇制		59	核兵器	
23	君が代を歌うことを義務づけること		65	人種差別	
8	愛国心		12	戦争	
項目番号	エコロジー	$\alpha = .713$	項目番号	政治腐敗批判	$\alpha = .721$
39	エコロジー		67	派閥政治	
32	熱帯森林の保護		58	日本の官僚	
54	地球環境問題へのとりくみ		28	企業による献金	
18	フロンガスの生産規制		45	二世議員（議員の世襲）	
24	無農薬野菜		2	金権政治	
項目番号	自由・平等	$\alpha = .725$			
1	人それぞれの個性を尊重すること				
7	男女平等				
13	男女雇用機会均等法				
16	言論の自由				
6	自由主義				

キャッチフレーズ形式を用いた新しい政治的態度尺度の構成

Table 2 新政治的態度尺度 35 項目の因子分析（主成分分解 → Varimax 解）

項目番号	項 目	1	2	3	4	5	6	7
27	自衛隊	711	221	- 174	021	- 036	- 023	123
43	原子力発電所を増やすこと	609	131	- 076	- 109	- 036	259	039
56	日本国憲法の改正	591	- 157	129	019	- 015	016	093
35	日米安保条約	538	298	- 079	289	- 096	- 058	207
22	大企業	433	081	077	- 035	120	- 055	395
68	敬語を使うこと	- 059	779	015	- 070	243	- 099	003
60	目上の人を尊敬すること	138	692	170	084	034	- 068	174
20	天皇制	125	627	064	- 098	- 183	041	100
23	君が代を歌うことを義務づけること	303	438	062	010	- 509	030	020
8	愛国心	391	426	318	053	- 055	- 099	095
39	エコロジー	- 049	058	735	- 027	114	- 027	- 113
32	熱帯森林の保護	- 010	- 039	708	052	186	- 204	062
54	地球環境問題へのとりくみ	012	143	641	047	271	- 116	- 200
18	フロンガスの生産規制	- 049	177	569	194	044	- 058	- 045
24	無農薬野菜	093	006	482	185	054	- 325	- 006
7	男女平等	063	- 037	128	775	155	- 022	- 187
13	男女雇用機会均等法	029	- 031	100	720	062	- 168	- 175
16	言論の自由	- 182	175	155	500	499	- 016	121
6	自由主義	118	- 077	256	416	383	- 105	112
1	人それぞれの個性を尊重すること	014	- 101	352	311	323	- 194	168
11	市民運動	- 120	- 100	086	224	661	001	011
52	ストライキ	178	- 135	083	- 145	645	- 019	- 229
62	市民が政治に参加すること	- 085	179	219	254	611	- 062	- 182
33	政治に関心を持つこと	023	109	171	- 008	591	- 318	- 123
49	民主主義	022	113	390	147	542	- 020	- 042
41	公害	- 062	- 056	- 104	057	- 126	772	130
5	地球温暖化	- 042	- 044	- 207	070	- 079	708	- 008
59	核兵器	221	- 022	- 131	- 175	- 125	670	157
65	人種差別	- 072	- 082	- 109	- 186	- 004	669	399
12	戦争	219	011	- 032	- 350	101	621	149
67	派閥政治	099	016	- 123	028	059	088	680
58	日本の官僚	074	117	071	- 196	- 175	160	657
28	企業による献金	110	117	- 166	- 235	- 088	272	587
45	二世議員（議員の世襲）	177	102	012	064	- 137	088	584
2	金権政治	074	023	- 333	- 289	- 196	276	440

注）小数点省略

Table 3 新政治的態度尺度の男女別平均値と標準偏差

尺 度	男 子		女 子
政治的保守主義	18.724 (4.992)		18.581 (4.258)
社会的保守主義	19.619 (5.069)	<	20.941 (4.433)
エコロジー	30.552 (4.088)		31.382 (3.345)
自由・平等	28.149 (4.417)	≪	29.588 (3.659)
政治参加・関心	26.970 (4.368)		26.868 (3.814)
現代世界の危機	31.612 (4.891)	≪	33.074 (3.040)
政治腐敗批判	28.746 (4.852)		28.676 (3.659)

注) < … $p < .05$, ≪ … $p < .01$
 カッコ内は標準偏差

女子の方が平均値が高いことが認められた。「自由・平等」尺度の男女の平均差は、男女平等に関する項目が2個含まれているためであると考えられる。

3. 新政治的態度尺度の因子分析

次に尺度間の相関関係をみるために尺度間の相関行列をもとめた (Table 4 参照)。尺度間の相関係数は比較的高いものがみられるために、上位因子の存在が予想される。そこで、尺度間の相関構造を要約するために、尺度間相関行列を主成分分析し、Varimax 解で2因子を得た。結果を Table 5 にしめす。

第一因子は、「政治的保守主義」、「社会的保守主義」に正の負荷をもち、「政治腐敗批判」に負の負荷をもつ。そこで、当因子は一般的な保守主義—革新主義の態度特性を測定する因子と考えられる。

第二因子は、「エコロジー」、「自由・平等」、「政治参加・関心」、「現代世界の危機」、「政治腐敗批判」に正に負荷する因子で、種々の社会問題に積極的にかかわろうとする一般的態度を

Table 4 新政治態度尺度間の相関行列

	政治的保守主義	社会的保守主義	エコロジー	自由・平等	政治参加・関心	現代世界の危機	政治腐敗批判
政治的保守主義							
社会的保守主義	0.364 **						
エコロジー	- 0.014	0.177 **					
自由・平等	- 0.002	0.033	0.406 **				
政治参加・関心	- 0.091	- 0.048	0.457 **	0.489 **			
現代世界の危機	- 0.141 *	0.062	0.384 **	0.339 **	0.270 **		
政治腐敗批判	- 0.349 **	- 0.219	0.289 **	0.300 **	0.325 **	0.469 **	

注) * … $p < .05$, ** … $p < .01$

Table 5 新政治的態度尺度の因子分析（主成分分解→Varimax 解）

尺 度	第 一 因 子	第 二 因 子	共 通 性
政治的保守主義	797	－ 079	642
社会的保守主義	783	134	632
エ コ ロ ジ ー	169	767	617
自 由 ・ 平 等	032	734	540
政治参加・関心	－ 069	724	529
現代世界の危機	－ 139	676	477
政治腐敗批判	－ 544	579	631

注）小数点省略

測定する因子と考えられる。

なお、これらの2因子に関して、Promax 回転をこころみたが、ほぼ直交であった。これらの結果は、Kerlinger (1984) や東 (1990, 1992) が明らかにした保守主義 (conservatism) と自由主義 (liberalism) の2次元直交仮説を想起させる結果である。

4. 新政治的態度尺度の妥当性 —— 支持政党別の判別分析

本研究で新たに構成した新政治的態度尺度の妥当性を評価するために、被験者の支持政党と本尺度で測定した政治的態度特性が整合的に関連しているかどうかを検討することにした。そこで、被験者の支持政党を外的基準にして、新政治的態度尺度をもちいた正準判別分析をおこなった。

なお、支持政党の特定化は次の手順によった。まず最初に政党支持を質問したのち、支持政党がないもしくはいえないと答えた被験者に対して、再度好きな政党を質問する。最初の質問で支持政党を答えた被験者を、それぞれの政党支持者とした。これにくわえ、2回めの質問で好きな政党を答えた被験者を各政党支持者とみなして付け加えた。支持なし群は2回の質問とも支持なしと答えた被験者から構成された。この分類によって、最終的には248名を正準判別分析の対象とした。Table 6には各政党支持者の人数構成を示している。

さて、被験者の支持政党を外的基準とした正準判別分析の結果、第二判別軸までが、統計的に有意であった。そこで、第二判別軸までをとりあげて解釈をおこなうことにした (Table 7を参照)。

第一判別軸には、「政治的保守主義」、「社会的保守主義」がプラスに負荷し、「政治参加・関心」、「政治腐敗批判」がマイナスに負荷している。これらのことから、この軸は、一般的保守主義を測定すると考えられる。Fig. 1の判別得点軸上の群別平均値のプロットによれば、マイナス方向には、共産党支持を、プラス方向には新生党、自民党支持を位置づける。1989年

Table 6 政党支持者群の分類結果

	自民党	社会党	公明党	日本新党	新生党	共産党	新党さきがけ	支持なし
男子	8	7	4	18	8	12	4	58
女子	11	11	2	13	11	3	6	72
計	19	18	6	31	19	15	10	130

Table 7 支持政党別の正準判別分析

尺 度	第 1 軸	第 2 軸
政治的保守主義	904	057
社会的保守主義	508	- 215
エコロジー	046	050
政治参加・関心	- 366	501
自由・平等	- 268	- 355
現代世界の危機	- 166	- 343
政治腐敗批判	- 421	- 346
確 率 水 準	0.0001	0.0244

注) 確率水準をのぞいて小数点省略

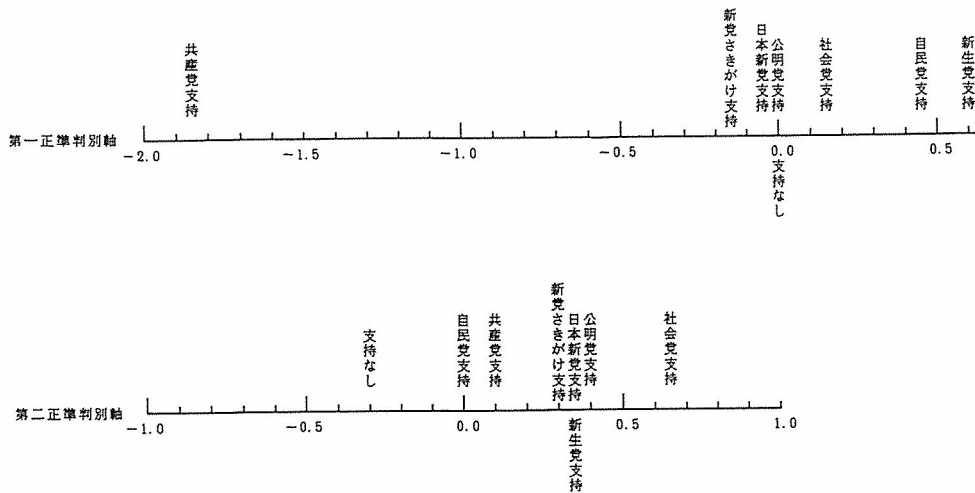


Fig. 1 各群の正準判別得点の平均値のプロット

のデータでは、保守―革新次元と解釈される判別得点軸上には、社会党支持者群が共産党支持者群について革新寄りに判別され、その他の政党支持者も保守―革新の序列のイメージと整合的するように判別されていたが（東，1993）、今回は、社会党支持者群は新党さきがけ、公明党、日本新党の支持者群らとともにほぼ原点付近に位置している。しかも、社会党支持者群は、原点付近の中道政党よりも判別軸のやや右寄り（保守側）にさえ位置しているのである。このように今回の結果では、従来通りの保守―革新の序列化は認められなかったが、新生党および自民党支持者群と共産党支持者群の間にのみ、保守―革新の態度差が認められている。調査時の政局の状況から考えれば、従来の保守―革新次元における支持政党の序列とは異なった今回の判別結果は、むしろ妥当な結果であると思われる。

第二判別軸には「政治参加・関心」がプラスに負荷し、「現代世界の危機」、「政治腐敗批判」や「自由・平等」がマイナスに負荷している。この軸は、政治的、社会的問題に対する関心の度合いを測定するものと考えられる。判別得点軸上にはマイナス方向に支持なし群を位置づけ、プラス方向に社会党、公明党、新党さきがけ、日本新党、新生党の支持者群をいちづける。支持なし群は、これらの政党支持者たちにくらべ、相対的に政治や社会問題に関心がないことを意味する結果であると考えられる。

〔総合的考察〕

新政治的態度尺度は、7尺度からなり、全尺度の下位項目数は5項目という簡便な尺度である。簡便ではあるが、内的整合性は、過去の尺度とくらべても遜色のあるものでなく、態度尺度としては十分に使用可能であろう。今回の報告では、妥当性検証は、支持政党との関連分析に限られておこなわれた。従来の保守―革新次元の枠組みの変化を感じさせる結果を得たが、全体的には尺度の妥当性を示唆する結果であったと考えられる。

この尺度構成の途上で、近年起こりつつあると予想される政治的態度構造の変化をほのめかす結果がいくつか得られている。その第一は、社会主義、共産主義、資本主義といった態度項目に負荷する社会主義や共産主義イデオロギー因子が尺度構成の段階で抽出されなかったということである。一方で、これらの態度項目が含まれない新政治的態度尺度の尺度間相関を因子分析した結果、いわゆる保守主義（conservatism）と自由主義（liberalism）に対応する態度次元が抽出されており、表面上は、これまでの政治的態度間構造との差異をみとめがたい。これらの結果を総合して考えられることは、ソ連の解体などの世界情勢の激変をうけた社会主義や共産主義イデオロギーの退潮によって、社会主義、共産主義、資本主義といった態度対象に対する態度の個人差変動が縮小した結果、ついには保守主義やその極となる革新主義の態度特性の中には含まれなくなってきたのではないかということである。この点に関してはより詳細な

検討が今後必要である。

次に、正準判別分析の結果では、従来の保守—革新次元における政党支持者群の序列と対応しない結果もでてきた。本研究の分析結果においては、社会党支持者が、共産党以外の政党支持者と比べて革新的であるとはいえず、平均的でやや保守的な態度強度を持っていることが示された。これは、東（1993）で報告した保守—革新次元の序列化が次第に崩れてきている可能性を示唆するものである。このような結果は、これまでの筆者の研究経過のなかで、はじめて見出した結果であることを付記しておく。現在、自社連立政権に象徴的に見られるように、社会党をはじめ各政党間の政策的差異が見出しにくくなっており、本研究の結果は、こうした変化の予兆のようでもあった。支持政党と保守—革新の態度次元の関係がどのように変化してゆくかをあとづけてゆくことは興味深い研究テーマとなろう。

今後は、本研究で構成された新政治的態度尺度の簡便性を生かして大学生および社会人のサンプルをもちいた調査研究に適用し、本研究で示唆された態度間構造の変化を跡づけてゆきたいと考える。

付記：本研究のデータの収集にご尽力を頂きました本学助教授加藤徹先生ならびに本学非常勤講師橋本尚子先生に記して感謝の意を表します。

〔参 考 文 献〕

- Kerlinger, F. N. 1972 The structure and content of social attitude referents: A preliminary study. *Educational and Psychological Measurement*, 32, 613-630.
- Kerlinger, F. N. 1984 *Liberalism and Conservatism*. Hilsdale: Lawrence Erlbaum Associates.
- 原田唯司 1986 Catchphrase 形式の尺度による政治的態度尺度の測定 静岡大学教育学部研究報告（人文・社会科学篇），37，145-154.
- 原田唯司 1989 あいまいさに対する不寛容，政治的関心，および政治的態度の三者関係について 心理学研究，60(3)，133-140.
- 東 正訓 1990 現代大学生の社会的態度間構造に関する研究 社会心理学研究，5(1)，1-11.
- 東 正訓 1993 政党支持集団の判別分析——保守—革新諸態度 8 尺度をもちいて—— 追手門学院大学心理学論集，創刊号，3-10.
- Wilson, G. D. & Patterson J. 1968 A new measure of conservatism. *British Journal of Social and Clinical Psychology*, 7, 264-269.
- 吉森 護 1974 保守主義に関する研究——大学生の保守主義の構造(1)—— 広島大学教育学部紀要第一部，23，383-394.

1994 年 9 月 30 日 受理